

「北海道PPP／PFI手法導入優先的検討規程」の概要

策定の背景

- 経済財政運営と改革の基本方針2015 (H27.6.30閣議決定)
 - ⇒人口20万人以上の地方公共団体等において、民間の資金・ノウハウの活用が効率的・効果的な事業については、多様なPPP／PFI手法導入を優先的に検討するよう促す仕組みを構築
- 多様なPPP／PFI手法導入を優先的に検討するための指針 (H27.12.15民間資金等活用事業推進会議決定)
- 多様なPPP／PFI手法導入を優先的に検討するための指針について(要請) (H27.12.17内閣府、総務省通知)
 - ⇒人口20万人以上の地方公共団体に対して、優先的検討規程の策定を平成28年度末までに行うよう要請
- 北海道PPP／PFI手法導入優先的検討規程 (H29.3策定)
 - ⇒国の要請を受け、下記のとおり、多様なPPP／PFI手法を導入するための優先的検討規程を策定

総則（第1章関係）

優先的検討を行うに当たって必要な手続を定めることにより、**新たな事業機会の創出や民間投資の喚起**を図り、**効率的かつ効果的に社会資本を整備**するとともに、道民等に対する**低廉かつ良好なサービスの提供**を確保し、もって国民経済及び地域経済の健全な発展に寄与することを目的とする。

優先的検討の開始（第2章関係）

新たに公共施設等の整備等を行うために**基本構想、基本計画等を策定する場合及び公共施設等の運営等の見直しを行う場合**のほか、その他の公共施設等の整備等の方針を検討する場合に、**併せて優先的検討を行うもの**とする。

優先的検討の対象とする事業（第3章関係）

- ①次のいずれかに該当する事業その他民間事業者の資金、経営能力及び技術的能力を活用する効果が認められる公共施設整備事業
 - ア **建築物又はプラントの整備等**に関する事業
 - イ **利用料金の徴収を行う公共施設整備事業**
- ②次のいずれかの事業費基準を満たす公共施設整備事業
 - ア **事業費の総額が10億円以上**の公共施設整備事業（建設、製造又は改修を含むものに限る。）
 - イ **単年度の運営費が1億円以上**の公共施設整備事業（運営等のみを行うものに限る。）

適切なPPP／PFI手法の選択（第4章関係）

優先的検討の対象となる公共施設整備事業について、当該事業の期間、特性、規模等を踏まえ、当該事業の品質確保に留意しつつ、最も適切なPPP／PFI手法を選択する。（例：BTO・BOT・BT・公共施設等運営権方式・指定管理者制度など）

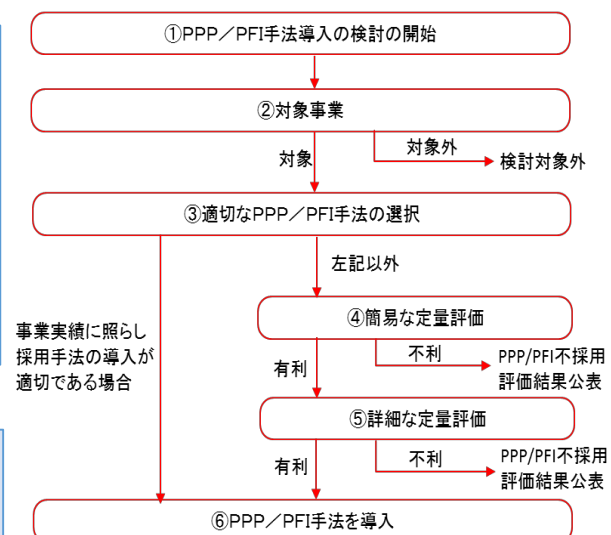
簡易・詳細な検討（第5、6章関係）

- ①簡易な検討
 - 従来型手法による場合と、採用手法を導入した場合との間で、費用等の総額を比較し、採用手法の導入の適否を評価する。
- ②詳細な検討
 - 簡易な検討において採用手法の導入に有利と評価された場合、専門的な外部コンサルタントを活用するなどにより、詳細な費用等の比較を行い、従来型手法による場合と、採用手法を導入した場合との間で、費用等の総額を比較し、採用手法の導入の適否を評価する。

評価結果の公表（第7章関係）

「簡易な検討」又は「詳細な検討」において採用手法の導入に不利と評価された場合、それぞれに定める時期に**インターネット上に公表**する。

PPP／PFI手法導入の優先的検討プロセス



PPP/PFIとは

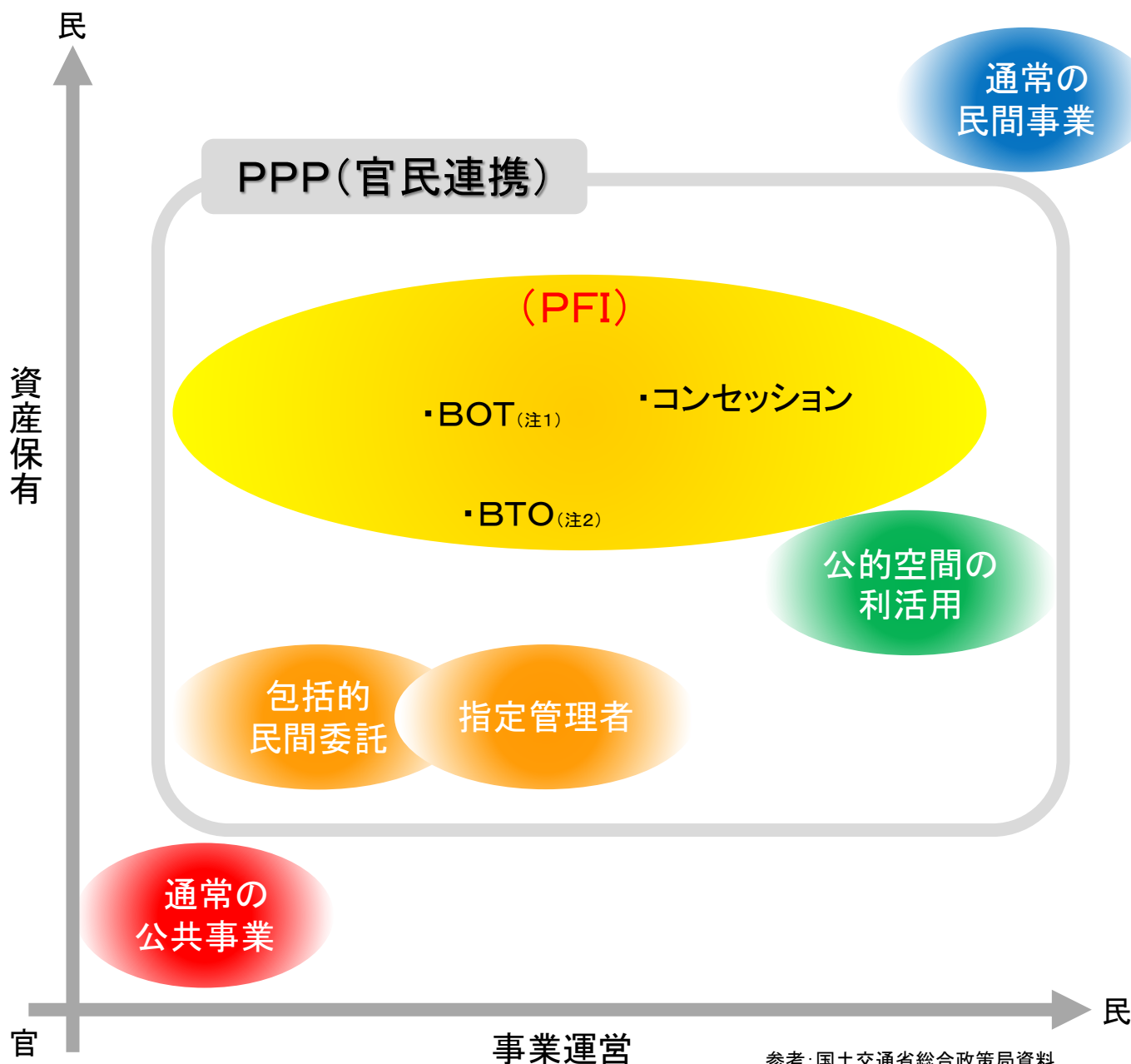
○PPP (Public Private Partnerships) :

公共施設等の建設、維持管理、運営等を行政と民間が連携して行うことにより、民間の創意工夫等を活用し、財政資金の効率的な使用や行政の効率化等を図るもの

○PFI (Private Finance Initiative) :

PFI法に基づき、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術能力を活用して行う方法

⇒ PFIは、数あるPPP手法の一つ



注1. BOT (Build Operate Transfer) :

PFI事業者が自ら資金調達を行い、施設を建設 (Build) し、契約期間中の維持管理・運営 (Operate) を行い、事業期間終了後は公共主体にその施設を移管 (Transfer) する方式。

注2. BTO (Build Transfer Operate) :

PFI事業者が自ら資金調達を行い、施設を建設 (Build) した後、その施設の所有権を公共主体に移管 (Transfer) した上で、PFI事業者が一定の事業期間、その施設の維持管理・運営 (Operate) を行う方式。

北海道PPP／PFI手法導入優先的検討規程

平成29年 3月31日

国においては、民間提案制度の法定化や公共施設等運営権の導入など、新たなPFI手法を設けるとともに、平成27年に「多様なPPP／PFI手法導入を優先的に検討するための指針」を定め、多様なPPP／PFI手法導入を優先的に検討するよう促す仕組みを構築し、平成28年には、今後新たに10年間で21兆円規模に及ぶ事業の推進を目標に掲げた「PPP／PFI推進アクションプラン」を決定するなど、PFI事業の更なる推進に向けた積極的な取組が展開されている。

道では、こうした国の動きや国内におけるPPP／PFI導入の進展などの状況変化を踏まえ、新たな事業機会の創出や民間投資の喚起を図るとともに効率的かつ効果的な公共施設等の整備等を進めることを目的として、公共施設等の整備等に多様なPPP／PFI手法を導入するための優先的検討規程について、次のように定める。

第1章 総則

1 目的

本規程は、優先的検討を行うに当たって必要な手続を定めることにより、新たな事業機会の創出や民間投資の喚起を図り、効率的かつ効果的に社会資本を整備するとともに、道民等に対する低廉かつ良好なサービスの提供を確保し、もって国民経済及び地域経済の健全な発展に寄与することを目的とする。

2 定義

本規程において、次に掲げる用語の意義は、それぞれ次に定めるところによる。

- (1) PFI法 民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（平成11年法律第117号）
- (2) 公共施設等 PFI法第2条第1項に規定する公共施設等
- (3) 公共施設整備事業 PFI法第2条第2項に規定する公共施設等の整備等に関する事業
- (4) 利用料金 PFI法第2条第6項に規定する利用料金
- (5) 運営等 PFI法第2条第6項に規定する運営等
- (6) 公共施設等運営権 PFI法第2条第7項に規定する公共施設等運営権
- (7) 整備等 建設、製造、改修、維持管理若しくは運営又はこれらに関する企画をい、道民等に対するサービスの提供を含む
- (8) 優先的検討 本規程に基づき、公共施設等の整備等の方針を検討するに当たって、多様なPPP／PFI手法の導入が適切かどうかを、自ら公共施設等の整備等を行う従来型手法に優先して検討すること
- (9) 指針 多様なPPP／PFI手法導入を優先的に検討するための指針（平成27年12月15日民間資金等活用事業推進会議決定）

3 対象とするPPP／PFI手法

本規程の対象とするPPP／PFI手法は次に掲げるものとする。

ア 民間事業者が公共施設等の運営等を担う手法	公共施設等運営権方式 指定管理者制度 包括的民間委託 O（運営等Operate）方式
イ 民間事業者が公共施設等の設計、建設又は製造及び運営等を担う手法	BT方式（建設Build-移転Transfer-運営等Operate） BOT方式（建設Build-運営等Operate-移転Transfer） BOO方式（建設Build-所有Own-運営等Operate） DBO方式（設計Design-建設Build-運営等Operate） RO方式（改修Renovate-運営等Operate） ESCO
ウ 民間事業者が公共施設等の設計及び建設又は製造を担う手法	BT方式（建設Build-移転Transfer）（民間建設買取方式） 民間建設借上方式及び特定建築者制度等（市街地再開発事業の特定建築者制度、特定業務代行制度及び特定事業参加者制度並びに土地区画整理事業の業務代行方式をいう。以下同じ。）

第2章 優先的検討の開始

1 優先的検討の開始時期

事業実施部局は、新たに公共施設等の整備等を行うために基本構想、基本計画等を策定する場合及び公共施設等の運営等の見直しを行う場合のほか、次に掲げる場合その他の公共施設等の整備等の方針を検討する場合に、併せて優先的検討を行うものとする。

- (1) 「北海道インフラ長寿命化計画（行動計画）」に記載されている「個別施設毎の長寿命化計画」の策定又は改定を行うとき
- (2) 「公営企業の経営に当たっての留意事項について」（平成26年8月29日総務省自治財政局通知）第2の「経営戦略」の策定又は改定を行うとき
- (3) 「北海道創生総合戦略」の改定を行うとき
- (4) (2) に掲げるもののほか、公営企業の経営の効率化に関する取組を検討する場合
- (5) 国公有地の未利用資産等の有効活用を検討する場合
- (6) 公共施設等の集約化又は複合化等を検討する場合

第3章 優先的検討の対象とする事業

1 対象事業

次の（１）及び（２）に該当する公共施設整備事業を優先的検討の対象とする。

- （１）次のいずれかに該当する事業その他民間事業者の資金、経営能力及び技術的能力を活用する効果が認められる公共施設整備事業
 - ア 建築物又はプラントの整備等に関する事業
 - イ 利用料金の徴収を行う公共施設整備事業
- （２）次のいずれかの事業費基準を満たす公共施設整備事業
 - ア 事業費の総額が10億円以上の公共施設整備事業（建設、製造又は改修を含むものに限る。）
 - イ 単年度の運営費が1億円以上の公共施設整備事業（運営等のみを行うものに限る。）

2 対象事業の例外

次に掲げる公共施設整備事業を優先的検討の対象から除くものとする。

- （１）既にPPP/PFI手法の導入が前提とされている公共施設整備事業
- （２）競争の導入による公共サービスの改革に関する法律（平成18年法律第51号）に基づく市場化テストの導入が前提とされている公共施設整備事業
- （３）民間事業者が実施することが法的に制限されている公共施設整備事業
- （４）災害復旧事業等、緊急に実施する必要がある公共施設整備事業

第4章 適切なPPP/PFI手法の選択

1 採用手法の選択

優先的検討の対象となる公共施設整備事業について、第5章に基づく簡易な検討又は第6章に基づく詳細な検討に先立って、当該事業の期間、特性、規模等を踏まえ、当該事業の品質確保に留意しつつ、最も適切なPPP/PFI手法（以下「採用手法」という。）を選択するものとする。この場合において、唯一の手法を選択することが困難であるときは、複数の手法を選択できるものとする。

2 評価を経ずに行う採用手法導入の決定

前項により選択した採用手法が次に掲げるものに該当する場合には、それぞれ次に定めるところにより、当該採用手法の導入を決定することができるものとする。

- （１）指定管理者制度 第5章の簡易な検討及び第6章の詳細な検討の省略
- （２）当該事業が施設整備業務の比重の大きいもの又は運営等の業務内容が定型的なものに該当する場合におけるBTO方式 第5章の簡易な検討を省略し、第6章の詳細な検討を実施
- （３）民間事業者からPPP/PFIに関する提案がある場合であって、当該提案において、従来型手法による場合と採用手法を導入した場合との間での費用総額の比較等の客観的な評価により、当該採用手法の導入が適切であるとされている場合における当該採用手法 第5章の簡易な検討を省略し、第6章の詳細な検討を実施

第5章 簡易な検討

1 費用総額の比較による評価

自ら公共施設等の整備等を行う従来型手法による場合と、採用手法を導入した場合との間で、次に掲げる費用等の総額（以下「費用総額」という。）を比較し、採用手法の導入の適否を評価するものとする。

第4章において複数の手法を選択した場合においては、各々の手法について費用総額を算定し、その最も低いものと、従来型手法による場合の費用総額との間で同様の比較を行うものとする。

- (1) 公共施設等の整備等（運営等を除く。）の費用
- (2) 公共施設等の運営等の費用
- (3) 民間事業者の適正な利益及び配当
- (4) 調査に要する費用
- (5) 資金調達に要する費用
- (6) 利用料金収入

2 その他の方法による評価

採用手法の過去の実績が乏しいこと等により費用総額の比較が困難と認めるときは、前項の規程にかかわらず、次に掲げる評価その他公的負担の抑制につながることを客観的に評価することができる方法により採用手法の導入の適否を評価することができるものとする。

- (1) 民間事業者への意見聴取を踏まえた評価
- (2) 類似事例の調査を踏まえた評価

第6章 詳細な検討

1 詳細な検討

第5章の簡易な検討において採用手法の導入に適しないと評価された公共施設整備事業以外の公共施設整備事業を対象として、専門的な外部コンサルタントを活用するなどにより、要求水準、リスク分担等の検討を行った上で、詳細な費用等の比較を行い、自ら公共施設等の整備等を行う従来型手法による場合と、採用手法を導入した場合との間で、費用総額を比較し、採用手法の導入の適否を評価するものとする。

第7章 評価結果の公表

1 簡易な検討の結果の公表

第5章の1の費用総額の比較による評価の結果、PPP/PFI手法の導入に適しないと評価した場合には、次に掲げる事項を、それぞれ次に定める時期にインターネット上で公表するものとする。

- (1) PPP/PFI手法を導入しないこととした旨その他当該公共施設整備事業の予定価格の推測につながらない事項 PPP/PFI手法を導入しないこととした後、遅滞ない時期
- (2) PPP/PFI手法簡易評価調書の内容 入札手続の終了後等適切な時期

2 その他の方法による評価の結果の公表

第5章の2のその他の方法による評価の結果、PPP/PFI手法の導入に適しないと評価した場合には、次に掲げる事項を、それぞれ次に定める時期にインターネット上で公表するものとする。

- (1) PPP/PFI手法を導入しないこととした旨及び客観的な評価結果の内容（当該公共施設整備事業の予定価格の推測につながらないものに限る。） PPP/PFI手法を導入しないこととした後、遅滞ない時期
- (2) 客観的な評価結果の内容（当該公共施設整備事業の予定価格の推測につながるものに限る。） 入札手続の終了後等適切な時期

3 詳細な検討の結果の公表

第6章の詳細な検討の結果、PPP/PFI手法の導入に適しないと評価した場合には、次に掲げる事項を、それぞれ次に定める時期にインターネット上で公表するものとする。

- (1) PPP/PFI手法を導入しないこととした旨その他当該公共施設整備事業の予定価格の推測につながらない事項 PPP/PFI手法を導入しないこととした後、遅滞ない時期
- (2) PPP/PFI手法簡易評価調書の内容（「第6章の詳細な検討の結果を踏まえて更新した場合は当該更新した後のもの） 入札手続の終了後等適切な時期

PPP/PFI手法導入の優先的検討プロセス

